

No.

96

平成30年5月1日発行

3月定例会

発行 秋田県鹿角市議会

編集 議会広報委員会

〒018-5292 鹿角市花輪字荒田4番地1

TEL (0186) 30-0280

e-mail gikai@city.kazuno.lg.jp

URL <http://www.city.kazuno.akita.jp/>



がづの市議会だより



1月10日「鹿角市いじめ防止子ども議会」が開催され、議長が講評、議員は傍聴しました

3月定例会、1月・2月臨時会の概要・・・2

代表質問に3名、一般質問に6名が登壇・・・4

派遣調査報告・・・・・・・・・・8

委員会審査ズームアップ・・・9

議案審議結果一覧・・・・・・・・10

第3回定例会

平成30年度一般会計・各特別会計予算を可決

平成30年第3回定例会
が3月2日(金)から3

月23日(金)までの22日間の日程で行われ、諮問6件、議案34件が上程され、いずれも原案のとおり適任・可決し、議員提出議案1件についても、原案のとおり可決しました。

第3回定例会に提案されました議案等の審議結果につきましては、10ページに掲載しております。

今定例会において、適任とされた人事案件は、次のとおりです。

○人権擁護委員

安倍 憲孝 氏
青山 武夫 氏
木下 フサ 氏
瀬川 悦子 氏
小館 洋子 氏
関 真澄 氏

主な議案の審議内容

平成30年度鹿角市一般会計予算について

質問 産科医等確保について、地域医療推進員を配置することだが、2つの民間団体とどのようにかわりを持つていくのか伺う。

答弁 地域医療推進員を新たに配置し、市民町の会や産婦人科を守る市民の団体とは、精神科医師を獲得した実績などのノウハウを共有しながら、連携して医師確保に努めてまいりたいと考えております。

質問 十和田八幡平駅伝について、今年は新たに女子の部を計画しているとのことだが、内容について伺う。

答弁 十和田八幡平駅伝の女子の部の創設については、これまで実業チームからの開催要望があったこと、全国的

に女子駅伝の大会数が男子に比べて少ないこと、女子駅伝は夏の大会がないことが上げられます。また、2020年東京オリンピックは夏の大会であり、夏の強化にもこの駅伝を活用していただきたいこと、また、鹿角出身の女子選手の凱旋の場をつくってあげること、出身選手たちの励みにもなり、地元の子供たちもそこを目指して頑張ることができるとも含めて、女子の部の創設に至ったものであります。

討 論

湯の駅おおゆの指定管理料として、1194万5000円が計上されており、これは指定管理者側の意向でもあり、建物を含めた一体的な管理は特に否定しないが、樹木管理については、初年度でもあり、専門的な要素やビオトープなどの高度な作業もあることから、樹木管理費等の費用は指定管理料とは別に切り離して別途計上するのが適

切かと思う。

また、樹木管理費用としては非常に高い金額であり、その額の算定基準は「設計基準をもとに都市整備課と相談して決めた。また、初年度なので、樹木の肥料と養生を必要とするため」とのことであったが、予算に関しては、可能な限り単価や数量を明示するべきであり、算定根拠が不明な状態では、賛同しない。したがって、本予算については、改善を要する点、及び不明な点があるので、反対する。

戸田芳孝議員

議会へ提出された
請願・陳情審議結果

平成30年第3回定例会では、陳情2件を審議しました。

結果は次のとおりです。

陳 情

《採択》

◆最低賃金の改善と中小企業支援の拡充を求める陳情

《不採択》

◆消費税を10%に増税することを中止することを国に求める意見書提出を求める陳情

議会から

関係機関への意見書

3月23日の本会議において、議員より提出された意見書1件について、原案可決し、関係機関へ提出しております。

◆最低賃金の改善と中小企業支援の拡充を求める意見書

第1回臨時会

平成30年第1回臨時会が1月11日(木)に開催されました。

臨時会では、市長より報告1件、議案2件が上程され、原案のとおり可決されました。

第1回臨時会に提案されました議案の審議結果につきましては、10ページに掲載しております。

第2回臨時会

平成30年第2回臨時会
が2月8日(木)に開催
されました。

臨時会では、市長より
議案2件が上程され、採
決の結果、原案のとおり
可決されました。

第2回臨時会に提案さ
れました議案の審議結果
につきましては、10ペー
ジに掲載しております。

主な議案の審議内容

控訴の提起について

質問 控訴した場合に、
裁判は何年かかる
かわからず、職員も非常
に難儀する。

職員には本来の職務を
全うしていただき、これ
までの反省点を踏まえ、
今後の行政運営に生かし
ていただきたいと考える
が、控訴を取り下げると
いう考えはないか。

答弁

市民の皆様には、
改めておわびを申
し上げます。
今回の判決は当時の担

当職員らが時効中断の解
釈誤りや時効中断となる
べき交渉記録等を見落と
すなどしたもので、これ
については十分反省し、
市長、副市長、関係職員
を処分したほか、市政に
対する市民の信頼回復が
早期に図られるように事
務の改善と職員の意識改
革の徹底などを約束して
おります。

判決は、国家賠償法で
公務員に対する求償を故
意・重過失に限定してい
るにもかかわらず、地方
自治法では故意・重過失
に限定していないことか
ら民法上の不法行為と同
等の過失で賠償責任を問
えると判断したと同然で
すが、類似の裁判例で
は、裁量の逸脱や故意
に近い著しい注意欠如な
どが認められない限り、
管理職等に賠償責任を求
めないものであります。
また、管理職として故
意や重大な過失があつた
とは述べられておらない中
で、過失の程度にかかわら
ず、全面的かつ多額の損
害賠償請求が管理職員に
対して発生することは、

討 論

これまで、約4年にわ
たり20回以上の口頭弁論
を経て判決が下るまで、
職員数名が裁判所へ出向
くなど大変な労力と費用
もかかった。これを控訴
すれば、負担がより増す
ものと思う。

また、この判決は類似
する判例をもとに下され
たと思われ、他市では和
解し賠償している。

さらに、本件の原告は
市民であり、これ以上、
住民と争うことは好まし
なく、争いは避けるべき
と考える。

したがって、住民との
信頼関係を損なわないた
めにも一審判決を受け入
れるべきと考えるので、
反対する。

戸田芳孝議員

【第2回臨時会、第3回定例会 議案賛否一覧】 (賛否が分かれた議案のみ掲載しております)

議席番号及び議員名 件 名	審議結果	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
		戸田 芳孝	金澤 大輔	安保誠 一郎	田口 裕	館花 一仁	児玉 悦朗	成田 哲男	中山 一男	栗山 尚記	児玉 政明	吉村 アイ	宮野 和秀	浅石 昌敏	倉岡 誠	田中 孝一	兎澤 祐一	田村 富男	黒澤 一夫
議案第3号 提訴の提起について	原案可決	●	○	●	●	○	○	○	○	○	-	●	議長	○	○	○	○	○	○
議案第4号 平成29年度鹿角市 一般会計補正予算(第12号)	原案可決	●	○	●	●	○	○	○	○	○	-	●	議長	○	○	○	○	○	○
議案第32号 平成30年度鹿角市 一般会計予算	原案可決	●	○	●	●	○	○	○	○	○	○	○	議長	○	○	○	○	○	○

※ 「○」=賛成 「●」=反対 「-」=欠席
※ 宮野和秀議長は採決に加わりません。

認知症対策について

問 昨年、神奈川県大和市が全国で初めて、市内の徘徊高齢者等SOSネットワーク登録者を被保険者として、公費で個人賠償責任保険に加入し、認知症の高齢者が損害を与えた場合に最大3億円を補償する事業を開始した。本市においても、認知症問題を社会問題と認識し、積極的に対策を講じていく必要があると思うが、他市に先駆け大和市のような対策に取り組む考えはないか。

答 認知症による徘徊等により事故が起きた場合の損害賠償リスクに備えるためには、個人で保険に加入する必要がありますが、保険料を公費で負担することの是非については慎重に判断する必要があります。むしろ、自治体が個別に施策を講じるよりも、公的なサービスとして構築されるのが望ましいと考えますので、まずはこうした問題を未然に防ぐため、介護予防に力を入れながら、窓口を訪れた相談者に対し民間保険や賠償責任について情報提供するなど、認知症対策を支援してまいります。

策を支援してまいります。

子育て支援について

問 若い世代の結婚・出産に係る経済的課題を少しでも軽減するため、第1子保育料無償化など、安心して結婚・出産・子育てができる支援が有効策と考えるがいかがか。

答 若い世代が安心して子育てをしていくため、経済的な負担の軽減だけでなく、一時預かりやファミリー・サポート・センター事業による子育てと仕事の両立支援のほか、子どもの交流の場の提供や、子育て講座の開催による子育ての楽しさや充実感を得られる環境づくりにバランス良く取り組んでいくことが重要でありますので、市といたしましては、このような取り組みを継続してまいりますと考えております。

なお、保育料助成については、国・県において段階的な見直しが行われておりますので、今後も動向を注視しながら対応を検討してまいります。

質問した項目

■ふるさと鹿角応援寄附推進事業について ■産業力の強化について
■子育て支援について ■認知症対策について ■こころと身体の健康づくりについて



鹿真会・公明

(田村富男議員)

道路網の整備について

問 市道「八正寺久保田線」道路整備の進捗状況を伺う。

答 現在、関係者全員からの同意が得られていないことや、近年、国の補助金の重点配分が、新設・改良から、老朽化対策にシフトしており、財源の確保が大きな課題となっております。

早期の事業着手に向け、関係者からの同意の取得を進め、補助金等の財源確保に努めてまいります。

質問した項目

■総合計画の進捗状況について ■平成30年度当初予算について ■農業生産の振興について ■高齢者福祉について ■道路網の整備について ■花輪第一中学校の大規模改造工事について ■文化財の保存・伝承について ■大湯環状列石の世界遺産登録の推進について

花輪第一中学校の大規模改造工事について

問 大規模工事とあわせ生徒の安全安心のためにも、学校までの通学路（沢小路方面の道路が狭隘で、側溝に蓋がない等）の整備も必要ではないか。

答 毎年、県・市・警察・学校・PTAによる「通学路合同点検」を実施しております。

沢小路方面の道路については、危険箇所の指摘や改善要望は受けておりませんが、今後も、関係機関と連携し、児童生徒の安全・安

心な登下校の環境を確保してまいります。

文化財の保存・伝承について

問 全屋台の改修計画を前倒しして、少しでも早く改修を終える方法を検討するべきでないか。

答 屋台修理事業は、平成28年度から進められ、現在2台目となる組丁の屋台修理を行っております。屋台1台の修理に見込まれる事業費約850万円に対し、国・県・市が補助を行うことで、事業主負担を10分の1程度まで軽減しております。

当初、全屋台の修理期間を7年間としておりましたが、国の補助内容の見直しにより、さらに10年程度延長される見込みとなっており、ことから、鹿角花輪駅前広場の完成予定として2020年度までに全ての屋台修理を終えるのは困難な状況であります。引き続き関係機関と連携しながら、事業が円滑に進むよう支援してまいります。

鹿角市に帰ってきたくなくなる地域づくりについて

問

市内には大変高度なノウハウを必要とする仕事をしている企業や、先端技術産業もある。市内の企業が需要としている人材や専門分野の人材、あるいは、どのような資格や経験のある人材を何人必要としているかを含め、市内の求人情報一覧を作成して市民や市内出身の大学生、市外で働いている方々に届けることが必要だと思うがどうか。

答

高度化を進める企業と市出身大卒者とのマッチングについては、市では、大学生等の地元就業を促すため、市内企業の高度な技術や魅力を紹介するPR動画やカタログを製作して大学等へ配布しているほか、高校生向けに合同説明会を開催しております。

新年度は、先般、秋田労働局と締結した雇用対策協定に基づき、県外大学進学者等を対象とした地元企業説明会を新たに開催し、地域産業が求める人材や技術力などの情報を発信しながら、高度な専門性を有する

人材の確保に努めるほか、市内企業による大学等への採用活動や首都圏で開催される移住フェア等でのPR活動を後押ししながら、優秀な人材の地元就業を促してまいります。

将来都市像の実現に向けた行政運営について

問

市民に開かれた行政運営の推進について、行政を運営するに当たって公正と透明性を確保することは基本であるが、これらはどのようにして確保されているのか伺う。

答

地域の声を市政に反映させるため、市長宛に直接要望等を伝える手段として「市長への手紙」を市内各所に設置しているほか、自治会等から要請があれば、市長自らあるいは担当職員が現地へ赴き、直接お話を伺っております。

このほか、「市民の声」制度や、出前講座などを通じて、様々な意見や要望等も受け付けており、寄せられた意見等は随時庁内で共有しながら、施策等への反映に努めております。

誠心会

(倉岡 誠議員)



質問した項目

- 第6次総合計画の推進について
- 鹿角市に帰ってきたくなくなる地域づくりについて
- 将来都市像の実現に向けた行政運営について

地域医療体制について

問

分娩機能が大館市立総合病院に集約されることで、移動時間が加わるにより市民の間には出産に関する多くの不安が起り始めている。それらに対するきめ細やかな対策を具体的に示す事が不可欠と考えるが対応について伺う。また、搬送リスク回避のための早めの入院への経済的助けに対する考えを伺う。

答

搬送距離や冬期間の解消するため、広域行政組合消防本部と妊婦の搬送について協議を行っているほか、かつの厚生病院が医療情報共有システム「あきたハートフルネット」に加入することにより、大館市立総合病院と妊婦健診の情報を共有しながら、スムーズな受け入れを可能にする準備も進めております。

また、「母子保健支援員」を新たに配置し、妊婦一人ひとりの状況と、不安や悩みを把握できる体制を整えることとしております。

これらの課題解決に向

け、医療機関・人材・消防・公共交通機関などが連携し、支援体制を整えるとともに、必要な予算についても措置してまいります。

問

今後、分娩機能再開のためには、産科医確保と設備維持や助産師確保等の環境維持が絶対条件と考えるが、これらに対する施策について伺う。

答

産科医の確保に関しては、新たに「地域医療推進員」を配置し秋田県・厚生連等と連携し、取り組みを進めてまいります。

また、「鹿角の産婦人科を守る会」「鹿角の医療と福祉を考える市民町民の会」で産科医募集チラシを配布する計画がありますので、両団体とも協力しながら、医師確保を呼びかけてまいります。

なお、かつの厚生病院では、集約後でも産科医が見つけ次第すぐに再開できるように、設備を維持していく方針であり、同病院に勤務する助産師も本人が希望する限り、継続雇用されることになっております。

福祉・介護対策について

問 市区町村が手がける軽度者向け介護サービス施設で、スタッフ不足等により経営難になっていると言われるが、本市の状況及び今後の対応策について伺う。

答 介護人材不足の解消は全国的にも喫緊の課題とされており、本市においても、現在、人員の不足により従来の介護予防サービスにあたる第1号訪問介護の提供を停止している事業所もあり、これを他の訪問介護事業者が担っている状況にあります。

また、介護人材の不足は、今後、さらに深刻になっていくものと考えておりますので、こうした状況を改善するため、本市においても、新年度から市独自の介護人材確保推進事業をさらに拡充していくとともに、国・県の新規事業の活用や、雇用対策協定を締結した秋田労働局などと連携しながら人材の確保を進めてまいります。

雇用対策について

問 「仕事はあるが人手不足によって事業を受注することができない」といった雇用状況にあるという声を聞くが、本市の状況及び今後の対応策について伺う。

答 昨年11月に本市の製造業を営む事業者に対して実施した「従業員の過不足調査」の結果でも人手不足や、それが原因で受注を見送ったと回答した企業が多く、企業訪問などの際にも同様のお話を伺うなど、建設業やサービス業などを中心に、業種を問わず人手が不足している状況にあると捉えております。

このため、産業コーディネーターを介して地域企業全体で協力しあえる体制づくりも進めているほか、先に締結した秋田労働局との雇用対策協定において、労働市場に参加していない女性や高齢者等の潜在労働力の発掘等に取り組むこととしておりますので、企業と関係機関が一体となって労働力の確保に努めてまいります。

質問した項目

- 福祉、介護対策について
- 雇用対策について
- 学校、教育について
- 道路維持補修について
- 運転免許証の自主返納について
- 地域づくりについて
- ふるさと納税について



田中 孝一 議員
(清風会)

農業問題について

問 カノコソウ等の生薬栽培に取り組めないか伺う。

答 一般的に、生薬栽培は製薬会社等との契約栽培により行われ、栽培技術面でも直接指導されませんが、試験栽培で明らかになったように、除草や収穫に要する作業負担や初期設備費用の大きさ、さらに薬用成分の含有量により、価格が大きく左右されるため、安定した収入の確保が難しいといった課題もあり、現段階では積極的に普及させることは難しいものと判断しております。

質問した項目

- 農業問題について
- 認知症対策について
- 公共土木施設の維持管理について
- 鹿角の医療と子育て支援について
- 災害対策について



浅石 昌敏 議員
(誠心会)

鹿角の医療と子育て支援について

問 分娩機能の大館市立総合病院への集約について、市民は大館に集約されることに不安を感じている。市としてどのような対策を考えているのか伺う。

答 新年度から「母子保健支援員」を配置し、妊産婦に対するきめ細やかな支援を強化することとしております。

が、出産にあたり不安に思っていることなど、妊婦一人ひとりの状況を丁寧聞き取って支援のニーズやサービス内容を具体化し、必要に応じて予算等を確保してまいりたいと考えておりますので、支援策が固まり次第、改めてご提案申し上げます。

問

かづのファミリー・サポート・センターにおいて育児の援助を行う提供会員の報酬(1時間600円)を県の最低賃金程度に増やせないか伺う。

答

基本の託児サービスに係る報酬につきましても、県内他市の状況を見ましても400円から600円に設定されていることや、援助活動という制度の趣旨からも、適正な金額であると考えております。

しかしながら、1月末現在の提供会員の登録者数46人に対し、援助を受ける依頼会員は1342人となっており、特定の会員への負担を軽減できるよう、制度の周知を進め、提供会員の増加に向けて取り組みを進めてまいります。

米生産調整の廃止に伴う影響と対応について

問

販売競争が一段と厳しくなると思われるが、鹿角の生産者の経営基盤はまだまだ脆弱な状態である。さらなる経営・販売面でのサポート体制が取れないか伺う。

答

農業農村支援機構の農業経営サポートセンターでは、今年度農業者の販路開拓のため、農業法人等の大規模経営体を対象に、大手商社とのマッチング支援などを行っているところであり、さらに新年度においては「実需と固く結びつく米産地応援事業」において、農業法人等の大規模経営体が自ら需要の掘り起こしを行い、有利な販売先の確保を行う取り組みを支援することとしております。

J Aや主食集荷業者等には、さらなる販路拡大に取り組んでいただき、市としては、生産者自身による個別の販路開拓の取り組みを支援するなど、経営・販売についてサポートしてまいりますので、経営の規模の大小にかかわらず、気

軽に農業経営サポートセンターに相談いただきたいと考えております。

医療の拠点集約化について

問

大館鹿角医療圏という枠組みの中で、今後も大館への集約が想定されるが、どのようにして地域医療を守っていくのか。また、誰が地域医療を担っていくのかという課題に直面しているが、市はどのように考えているのか伺う。

答

現在、「秋田県医療保険福祉計画」の策定作業が進められており、既存の医療機関が機能分担と連携を図り、地域全体で医療を支えることが必要とされており、医療の拠点が集約されることが想定される内容とはなっていないと認識しております。

本市におきましては、かづの厚生病院が中核病院としての機能を果たすことができるよう、市内医療機関との連携を図りつつ、医師修学資金貸与制度や開業支援等により、市内の医療提供体制の充実を図ってまいります。

質問した項目

- 米生産調整の廃止に伴う影響と対応について
- 分娩機能の大館集約問題について
- 医療の拠点集約化について
- 高校の統合について



田口 裕 議員

(無会派)

市内の企業への副業・兼業の解禁と促進の働きかけについて

問

労働力人口の減少を解消するため、厚生労働省が『副業・兼業の促進に関するガイドライン』を作成して、国も働き方の多様性を促している。鹿角市でも労働力人口の減少は顕著で、昨年6月にこれに関する請願書も議会に提出されていることから、その重要性と早急な取り組みが必要であると考えます。

質問した項目

- 市内の企業への副業・兼業の解禁と促進の働きかけについて
- キャリア教育について
- 職員の人材育成について
- 職員の人事評価について



金澤 大輔 議員

(鹿真会・公明)

この先に予想されるさらに進んだ少子高齢と人口減少が及ぼす影響は、収入は上がらないのに出費は確実に増え、一企業の給料だけではやっていけず、自分の生活を守るために仕方なく市外に転出するという、さらなる人口減を招く怖れがあると考えます。

人が増えず減る一方で、この先の市内の企業の存続すら危ぶまれる。

副業規制は企業の問題の範疇ではあるが「人口減少対策」と「労働力人口の確保対策」と捉え、その2点は「市が最も力を入れて取り組むべき課題」と捉えるべきではないか。

答

国では「副業・兼業の促進に関するガイドライン」の策定によって、原則、副業・兼業を認める方向が示されており、考え方は業種によって異なるのが現実であるため、国の方針を参考にしながらも様々な課題を考慮して、それぞれの企業が導入の判断をするべき問題であると考えています。

そこで、市のほうから、企業として多様な働き方を応援する「ワークライフバランス優良企業」として推奨するなど、市で企業に副業の規制緩和を働きかけるのはどうか。

政策研究所の政策実現性について

問 スポーツツーリズムを第2次スポーツ推進計画に追加する考えはあるのか伺う。

答 調査研究でも整理しているとおろ、鹿角版DMOへのスポーツ関係者の参画など、スポーツツーリズムとして一体的に進められる体制の整備が必要であることから、本格実施までにはまだ多くの検討を要するものと考えます。

まずは新年度においてスポーツ合宿制度を拡充するほか、市民の一般参加や全国からの愛好者が集うスポーツイベントの開催を検討することとし、スポーツに関わる交流人口の拡大を一歩ずつ進めながら、スポーツツーリズムの推進のための体制づくりを進めてまいります。

スキー全国大会の誘致について

問 今後も全国規模のスキー大会を開催される予定があるか。また、開催されるように積極的に誘致する考えはあるのか伺う。

答 来年度は全国高等学校スキー大会、また2021年には国民体育大会の開催が決定しているほか、2020年以降の全日本学生スキー選手権大会も開催に向けて検討しているところであります。

問 誘致するための設備や体制整備などの今後の計画や大会経費を賄うためにクラウドファンディングを活用してはどうか。

答 全国規模の大会の開催にあわせ、順次、施設や機材の改修を行っておりですが、今後はリフトや降雪機、計時計測システムなどについて、関係団体と協議しながら必要な更新を行ってまいります。

また、今シーズンの大会経費には、すでにふるさと納税の一部を充てておりますが、クラウドファンディングで賄うには、収入見通しを確定できない場合があることから十分な検討が必要であると考えます。いずれにしましても、さらに多くの方々から、さまざまな機会を通じて支援していただくよう、より一層のPRに努めてまいります。

児玉 悦朗 議員
（清風会）



質問した項目

- 「地域新エネルギービジョン」について
- 政策研究所の政策実現性について
- 医療の広域連携について
- 所有者不明な土地の発生状況について
- スキー全国大会の誘致について
- 学校の統合、再編計画について
- 教職員の勤務状況について
- 高校の統合について

議会の映像をぜひご覧ください

議会だよりには、会議の一部を掲載しております。本会議の様子は、インターネットからライブ中継や録画中継を視聴することができます。

また、各庁舎市民ロビーのテレビでも本会議を視聴することができます。

議会広報委員会
（岩手県紫波町）

○紫波町議会では、「議会だよりの編集」「議会報告会」「議会モニター」「女性議会・高校生議会」について調査しました。

紫波町議会議員の9人で構成される広報広聴常任委員会において、それぞれ企画・運営を担っております。

議会広報紙である「議会だよりしわ」の編集方針は「議会の活動内容を詳しく、かつ、分かりやすく町民に知らせる」「文章を簡潔にまとめ、レイアウト（写真、見出し）を工夫し、親しまれる紙面づくりをする」「余白を有効に使うこと」などでありました。

また、企画記事として、一般質問のその後の経過について掲載する「追跡」を掲載することで、議会活動の見える化を図っているほか、町民や町民団体等からの寄稿による「みみよりの話」「聞かせて町の声」を掲載し、双方向性を持たせているとのことでした。

さらに、県町村議連会が開催する議会だよりクリニックや新聞社からの研修の開催、議会モニターからの意見をいただきながら、議会だよりの編集に役立てているとのことでした。

議会報告会については平成21年度から開催しており、町内109ある自治公民館へ開催依頼し、そのうち毎年20カ所で自治公民館と共催しております。

平成29年度の参加者数は222人で、自治公民館の開催のほかに今回初めての試みとして、女性関係団体との意見交換も実施したところ、参加者からは大変好評であったため、こうした特定の団体に向けた意見交換会を今後も検討していくとのことでした。

（参加委員名）
金澤大輔、栗山尚記、吉村アイ、浅石昌敏、成田哲男



総務財政

◇平成30年度鹿角市一般会計予算中、財政調

◇「特別職の職員で非常勤の者の報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正」について、鳥獣被害対策実施隊の構成及び業務内容、出勤する場合の手当について、その内容をただしております。

これに対し、業務の内容について、法律に基づき鳥獣被害対策実施隊を設置し、これまでに猟友会に委託して行っていた駆除の事業を自治体が実施するもので、構成員は実働部隊として猟友会の会員の中で実際に駆除活動を行っている方のほか、啓発等の活動のため、農林課の担当職員が構成員になる予定である。

なお、報酬以外の費用弁償については、消防団の出動手当と同様に、1回の出勤につき2千5百円または2千円を支出するものであり、その答弁がなされております。

教育民生

次に、大湯環状列石

◇平成30年度鹿角市一般会計予算中、新年度より配置される地域医療推進員について、具体的にとどのような活動をするものとなるのかただしております。

これに対し、地域医療推進員は、厚生連や岩手医科大学との調整や訪問による情報収集、また、県の東京事務所配置され、首都圏で医療機関などからの情報収集等を行っている医師確保推進員と連携し、さらには、鹿角の産婦人科を守る会などとも情報を密にし、産婦人科医を初めとした医師を探すことが大きな目的となる。

なお、医師修学資金貸与者とも連絡を取りながら、将来スムーズに鹿角で医師として働いてもらうため、卒業後の研修受け入れ先の調整なども担っていたと、その答弁がなされております。

産業建設

の経営に関して、道の駅かづのでは赤字経営が続いていることや、全国的に道の駅の経営状況は大変厳しいと感じており、支援が必要と感じるがいかにか、ただしております。

◇平成30年度鹿角市一般会計予算中、園芸振興費における「北限の桃産地拡大推進事業」について、桃やリンゴの作業委託できる人材を養成することなどが、その内容について、ただしております。

これに対し、昨年度、果樹産地協議会のアンケート調査で、約半数の農家が「現状のままがいい」と回答したものの「自分がやめたらもう終わる」とあったことから、市ではこれ以上看過できない状況にあると判断し、人材育成事業を実施することとしたものである。

事業内容は、毎年20人程度募集し、経験の度合いによってコースを設定し、果樹センターなどにおいて、作業を実施し育成した上で、次年度からは農家へのマッチングを図ることとして、その答弁がなされております。

次に、湯の駅おおよ

雪の多かった冬も終わり、いよいよ春。新年度のスタートとなりました。

さて、4月28日に「湯の駅おおゆ」がオープンします。あと2カ所目の道の駅です。十和田、八幡平の観光ルート上の拠点として、鹿角の農産物や温泉を生かし、全国に情報発信して市内外から多くの方に訪れていただきたいと思っています。

この議会だよりも96号となりました。市民アンケートなどで、「読む方が少ない」という結果もありました。どうしたら気軽に読んでもらえるか、今後とも頭をひねりながら、議会や議員活動のお知らせをしたいと思います。

(成田 哲男)